

洪水期を振り返って…

今年の洪水期は、三隅川では大きな水害もなく無事に終わることができました。

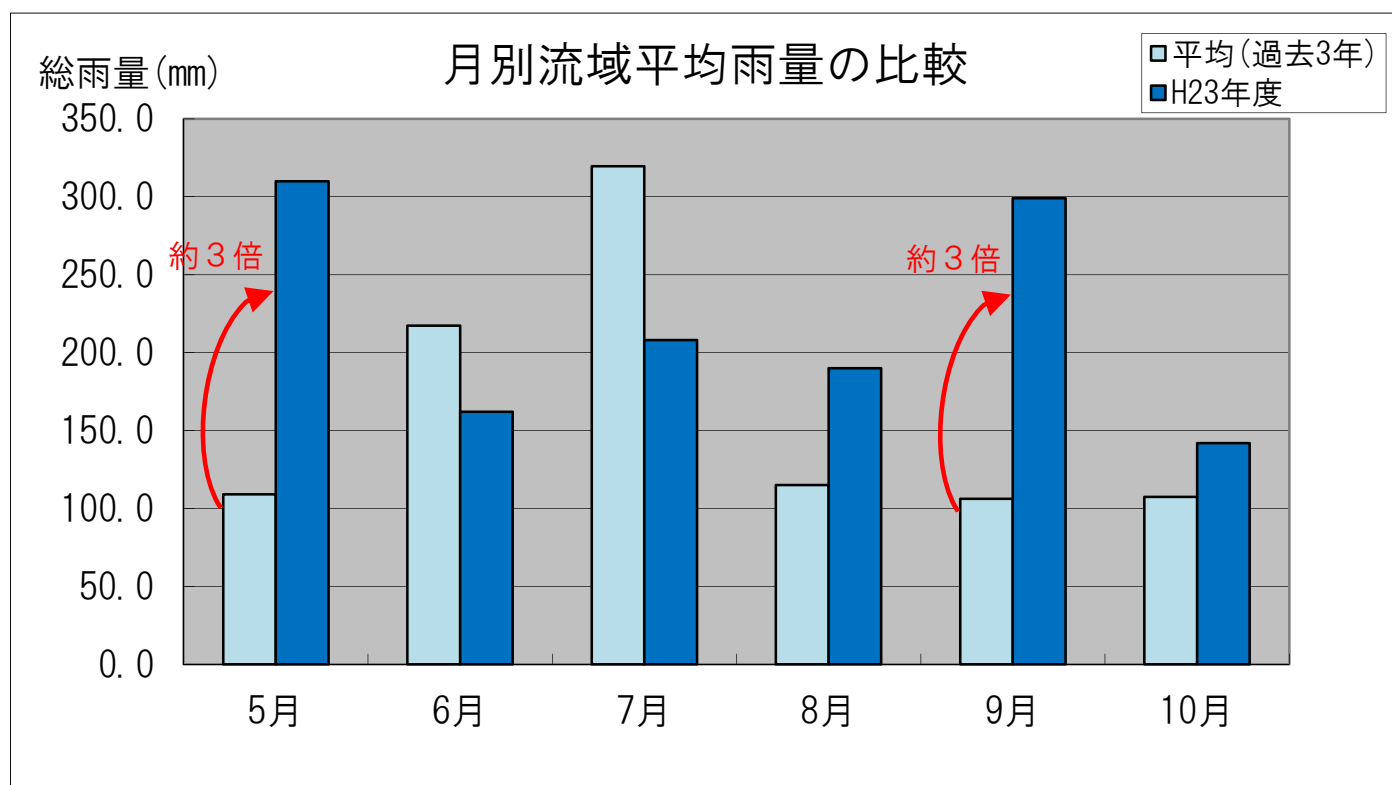
今年の雨の特徴は5月と9月に雨が多く降ったことです。下図はダム流域における月間降水量を比較した図ですが、5月と9月は過去3年間平均の約3倍の降雨があったことが分かります。

なかでも5月10日からの大雨では降り始めからの総雨量が187mm、ダムへの最大流入量は162m³/sに達し、三隅川では水防団待機水位を超え、はんらん注意水位まであと少しと迫りました。

御部ダム建設から20年以上が経ちますが、5月に洪水量である120m³/sを超えたのは初めてです。

9月は、台風の影響などで降雨量の変化が大きくなることはありますが、5月の降雨については、予想外でした。

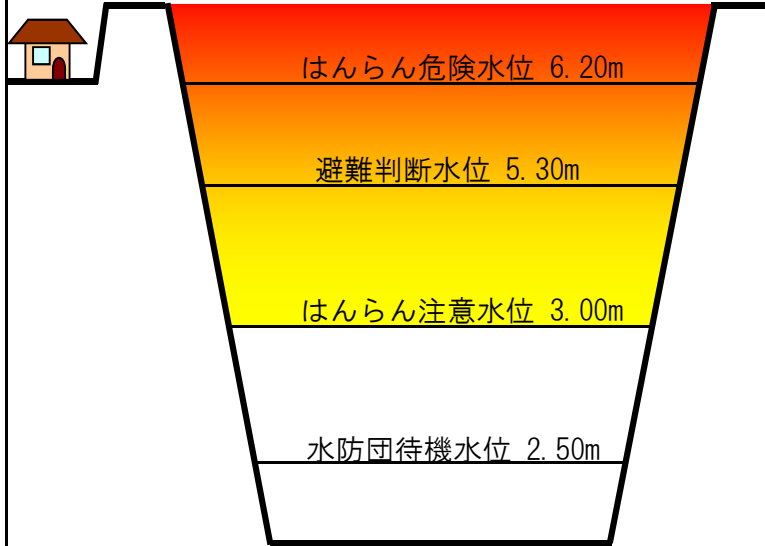
※ 最大流入量162m³/s → 1秒間に162m³の水がダムに流入したこと。
162m³とは一般的なお風呂約800杯分。



水位設定について

三隅川の三隅水位観測所では避難に関する各水位が下図のように設定されています。

三隅川 三隅水位局地点 断面図



【はんらん危険水位】
この水位に達するまでに避難を完了してください。

【避難判断水位】
市町村が避難勧告を発令する目安となる水位です。
避難について判断してください。

【はんらん注意水位】
市町村が避難準備情報（要援護者避難情報）を発令する
目安となる水位です。
はん濫に関する情報に注意してください。

【水防団待機水位】
水防団が待機する水位。

災害に備えて（近所の人に声をかけて、早めに避難）

先日、群馬大学 片田教授の「想定外を生き抜く力」という講義を聴く機会がありました。
片田教授は、東日本大震災で被災地となった岩手県釜石市において児童・生徒を中心に防災教育を平成16年から取り組んでおり、大震災では、学校管理下にあった児童・生徒は全員無事でした。

この講義の中で、釜石市の小学生へ教えてきた「避難3原則」の紹介がありました。

【避難3原則】

『想定にとられるな』 → 相手は自然、想定を超える事態も当然あり得る

『最善を尽くせ』 → 「これで大丈夫」ではなく、そのときできる最善の対応行動をとる

『率先避難者たれ』 → まず自分が率先して避難すること。その姿を見て、他の人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことが可能となる

5月の雨も、例年ではありえない雨、想定外の雨でした。このように相手は自然なので、想定を超える事態も当然あり得ます。

御部ダムにも想定があります。想定を超える雨でダムは溢れます。ダムではそのような事態になれば、情報提供や警報活動を行います。

その時、命を守るためには避難することしかありません。

いざというときに、どのように行動したらよいのかを日頃から考えておくことが大切です。

島根県浜田県土整備事務所
御部・大長見ダム管理グループ
〒697-0041 島根県浜田市片庭町254
TEL. 0855-29-5678



シマナスク・島根

御部ダム管理所
TEL. 0855-35-1421

ダム情報自動案内
TEL. 0855-35-1316